

第59回中学生作文コンクール

都道府県別賞一等

“宝物”を守るために

京都府 京都市立蜂ヶ岡中学校 二年生

吉川 真由

ある日、家の片付けをしていた時だった。一冊のアルバムが目に入り、ふと、手に取って中を見た。そこにはたくさん写真が納められていた。アルバムの最初の方は、五歳年上の兄の赤ちゃんの時の写真だった。「お兄ちゃん、可愛い。」と声に出してしまうほど、愛らしい写真がたくさん出てきた。私はどんどんページをめくった。するとあるページを境に、私の赤ちゃんの時の写真になった。よく見ると、私は兄よりも体が大きく、兄と比べると、あまり愛らしくなかった。

すると二階から母が降りて来た。一階からなかなか私が戻ってこなかったで、心配したのだろう。母はアルバムと一緒に見始めた。私は母にさつき感じた思いをありのままに聞いた。

「私、とっても大きいよね……。」

すると母は

「そうだね、真由は三六〇〇グラムで生まれてきたから、仕方ないよ。でもね、お父さんやお母さんにとって、お兄ちゃんも真由も“宝物”だよ。」

と言った。当時、小学生だった私は

「ありがとう。」

と、素直に言った。続けて母は、少しなつかしそうに、でもまるで昨日のことかのように、鮮明に話し始めた。

「真由を妊娠する前、脳に腫瘍があったんだよ。『腫瘍を取り除かないと、妊娠できません。』ってお医者に言われたんだ。だから、脳の腫瘍を取り除いて、妊娠して、真由が生まれてきてくれたんだよ。」

と話してくれた。私は、

「手術、いっぱいして、不安だったり、大変だったりしなかったの？」

と聞いた。母は

「不安だったけど、生命保険に加入してたから、大丈夫だったよ。」

と言った。私は、

「生命保険？」

と普段聞き慣れない言葉を聞いて、少し困惑した。すると母は

「真由も、生命保険の意味は、中学生くらいになったら、分かるよ。」と笑って言った。

第59回中学生作文コンクール

そして今、私は十四歳の中学二年生だ。生命保険に加入する目的や、生命保険の大切さを理解できる年頃になった。

あの時、母が加入していたものは、治療費や入院費を負担してくれる生命保険だった。生命保険は、二つの「安心」を保障してくれるものだと思う。

一つ目の「安心」はお金だ。今、手術したり、入院したりするためには高額な費用を支払わなければならない。それに、入院中は働くことができず、収入を得ることが難しい。収入よりも、出費の方が高いなんてことも、起こり得る。母の場合、家族が高いお金を払うことから守ってくれたと思う。

そして、二つ目の「安心」は、心の「安心」だ。先ほど述べたお金を負担してもらえらるというのが、心の「安心」につながっている。それに、質の良い治療を受けられるので、完治できる可能性も上がる。これも、心の「安心」の一つだと思う。それに、『病は気から』という言葉があるように、病気を治すためには、精神的な部分も関わっていると思う。だから心の「安心」はとても不可欠だ。「安心」は目に見えない。それでも、たしかに、私の母や、家族の心を温めてくれたと思う。

あの頃と同じように、今でも母は、私や兄を「宝物」のように、大切に育ててくれている。時に優しく、時に叱り、いつでも楽しく生きている。親である父や母にとって、子どもである私や兄は「宝物」のような、かけがえのない存在だ。大人になって私にも、「宝物」と言える、守りたい人、一緒に生きたいと心の底から言える人ができるかもしれない。私も、大人になったら、生命保険に加入したいと思う。私の「宝物」を守るために。